



発行所 福島県立高等学校 P T A 連 合 会
編集者 福島県立高等学校 P T A 連 合 会 委 員 会 調 査 広 報 委 員 長 塩 澤 秀 介

第六十三回福島県高等学校 P T A 連 合 会 い わ き 大 会
未 来 へ つ な ぐ っ ぐ 。 大 切 な い の ち を 。
福 島 で 生 き る 子 供 た ち の 未 来 へ



第六十三回福島県高等学校 P T A 連 合 会 い わ き 大 会 は、平 成 二 十 五 年 六 月 六 日 (木) 七 日 (金) の 二 日 間、ス パ リ ゾ ー ト ハ ワ イ ア ン ス を 会 場 と し て 開 催 さ れ ま し た。大 震 災 や 東 北 大 会 福 島 大 会 の た め に 三 年 ぶ り の 開 催 と な り ま し た が、大 会 テ ー マ 「 未 来 へ つ な ぐ っ ぐ 。 大 切 な い の ち を 。 」 福 島 で 生 き る 子 供 た ち の 未 来 へ

の 方 々 の 多 年 に わ た る P T A 活 動 に 対 し て 贈 呈 さ れ、引 き 続 き 県 高 P 連 広 報 紙 コ ン ク リ ー ム で、川 俣 高 校 P T A ・ 田 村 高 校 P T A ・ あ さ か 開 成 高 校 P T A が 表 彰 さ れ ま し た。講 演 で は、講 師 に N P O 地 球 の ス テ ー ジ 代 表 理 事 桑 山 紀 彦 氏 を お 迎 え し、「地 球 の ス テ ー ジ」災 害 特 別 版 の 演 題 で 行 わ れ ま し た。世 界 の 難 民 キ ャ ン プ で の 医 療 救 援 活 動 や 東 日 本 大 震 災 で の 被 災 者 支 援 の 活 動 を も と に 命 の 尊 さ や 心 の ケ ア の 大 切 さ を 訴 え、ギ

ター 演 奏 に よ る ご 自 身 の 歌 の 披 露 と あ い ま っ て 感 動 に 満 ち た ご 講 演 を い た だ き ま し た。教 育 懇 談 会 で は、N P O う つ く し ま Y O S A K O I 振 興 会 の 皆 様 に よ る よ さ こ い 演 舞 が 披 露 さ れ る 中 で、参 加 者 は 地 域 を 越 え て 交 流 を 深 め ま し た。
◎ 分 科 会
五 つ の 分 科 会 で 各 二 校 の テ ー マ 発 表 が 行 わ れ、協 議 に お い て は 参 加 者 の 熱 気 が み な ぎ っ て、盛 ん な 意 見 交 換 が 行 わ れ ま し た。各 校 に 協 議 内 容 が 持 ち 帰 ら れ、さ ら に 有 意 義 な 活 動 が 展 開 さ れ る こ と を 願 い ま す。

◎ 分 科 会
「 四 倉 高 等 学 校 に お け る 進 路 指 導 (就 職) の 取 り 組 み に つ い て 」
四 倉 高 等 学 校 P T A 会 長 村 田 安 則
「 我 が 校 の 進 路 指 導 (進 学) に つ い て 」
福 島 工 業 高 等 学 校 P T A 会 長 相 馬 東 高 等 学 校 P T A 会 長 丹 野 吉 男

「 生 徒 の 新 目 標 決 定 と P T A の か か わ り 方 」
「 い わ き 海 星 高 校 の 自 転 車 利 用 に 関 す る 調 査 研 究 」
「 見 て 知 っ て 広 報 紙 」
須 賀 川 高 等 学 校 緑 の 会 会 長 飯 村 正 明
「 本 校 に お け る 広 報 活 動 」
好 間 高 等 学 校 調 査 広 報 委 員 長 大 須 賀 眞 由 美

◎ 開 会 式 ・ 表 彰 式 ・ 講 演 ・ 教 育 懇 談 会
第 一 日 目
表 彰 式 で は、表 彰 状 が 小 野 田 浩 宗 双 葉 高 校 P T A 会 長 に、感 謝 状 が 関 根 英 樹 前 県 高 P 連 会 長 以 下 三 十 一 名

東北地区高P連頭彰受賞者

- 表彰状
橋内 善雄 福島商業高等学校 副会長 東北地区会長
木村 浩之 原町高等学校 副会長 相双地区会長
● 感謝状
関根 英樹 福島高等学校 会長 会長
遠藤 高志 郡山北工業高等学校 副会長 代議員 (健全育成副委員長)

福島県高P連頭彰者

- 表彰状
双葉高等学校 小野田 浩宗
サテライト校代表P会長として教育環境等の向上のために特に尽力した。県高P連進路対策委員 双葉高等学校PTA会長1年 副会長2年
● 感謝状
関根 英樹 福島高等学校 会長
本間 稔 福島高等学校 副会長(総務副委員長)
湯田 重哉 福島高等学校 理事(事務局次長)
片平千賀子 福島高等学校 理事
橋内 善雄 福島商業高等学校 副会長(進路対策副委員長)
菅野 貴夫 福島商業高等学校 理事(東北地区会事務局次長)
佐藤 喜夫 福島商業高等学校 理事
伊藤 祐治 福島東高等学校 理事(健全育成副委員長)
藤田 敏夫 福島東高等学校 理事
遠藤 高志 郡山北工業高等学校 副会長(健全育成委員長)
佐藤 千紀 郡山北工業高等学校 理事(東南地区会事務局次長)
高橋 和昭 郡山北工業高等学校 理事
柳沼 雅彦 清陵情報高等学校 理事(進路対策副委員長)
田村 和彦 清陵情報高等学校 理事
林 健幸 会津高等学校 副会長(調査広報委員長)
平岩 典男 会津高等学校 理事(会津地区会事務局次長)
渋谷 祥雄 会津高等学校 理事
大八木正秀 喜多方桐桜高等学校 理事(進路対策副委員長)
星 博之 喜多方桐桜高等学校 理事
長谷川浩一 西会津高等学校 監事
鹿股 巨 磐城桜が丘高等学校 副会長(進路対策委員長)
守谷 早苗 磐城桜が丘高等学校 理事(いわき地区会事務局次長)
清水 幸恵 磐城桜が丘高等学校 理事
松尾つや子 いわき総合高等学校 理事(調査広報副委員長)
石井 克典 いわき総合高等学校 理事
猪狩 理佳 平工業高等学校 監事
木村 浩之 原町高等学校 副会長(健全育成副委員長)
本多 光弥 原町高等学校 理事(相双地区会事務局次長)
西山喜代子 原町高等学校 理事
木下 洋子 相馬高等学校 理事
草野 久 相馬高等学校 理事

新会長に福島佳之氏 (安積)

総会で選出

相双地区の被災会員校へ 義援金を贈呈

全国高P連から 三百万円

平成二十五年度総会は六月六日、いわき市のスパリゾートハワイアンズで県大会に先立ち開催されました。昨年は東北大会福島大会のため、総会のみ別の日に行われましたが、今年度は三年ぶりに大会と同時に開催され、構成員百十八名中九十四名の出席(二十七名の委任状含む)を得て各議案が審議されました。

承認・決定された議案は以下のとおりです。

- 一、二十四年度事業報告
- 二、二十四年度決算報告・監査報告
- 三、二十五年度事業計画案
- 四、二十五年度予算案
- 五、二十五年度役員・専門委員の選出及び顧問の推薦並びに派遣役員の選出

積(東) 情報(松)	島(清) 多(喜) 方(多) 合(馬)	安(福) 陵(喜) 多(喜) 方(多) 合(馬)	之(津) 雅(秀) 和(清) 夫(範)	佳(馬) 亜(塚) 俊(美) 秀(田)	島(門) 古(川) 塚(澤) 佐(保)	福(島) 門(古) 川(塚) 澤(佐)	長(副) 会(監) 事(顧)	会(副) 長(監) 事(顧)
------------	---------------------	--------------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	----------------	----------------

二十五年度役員等

からも深い理解と「全力を挙げて対処したい」というお言葉頂きました。

要望事項

- 一 地震により破損・損壊した施設・設備の早期復旧
- 二 放射線に関わる諸調査及び除染対策の継続と強化
- 三 サテライト校における教育環境の整備
- ア 協力校・大学との緊密な連携と施設設備の有効活用の促進
- イ 教育用具等、備品不足の解消

平成二十五年度

東北高P連大会・

全国高P連大会報告

全国高P連山口大会

今年度も義援金の募集活動は行われており、その第五次配分として全国高P連から三百万円の浄財が恵贈されました。この義援金については、相双地区の会員校に対し、それぞれの移転状況により二百五十八万円、高P連相双地区会自体の活動支援のために四十二万円を九月二十六日に贈呈しました。

東日本大震災等で

県教育長に要望

県高P連は九月三日、福島会長はじめ副会長である各地区会長等が参加して、「東日本大震災並びに原発事故に関わる高校教育の早期正常化対策」について、県教育長に対する要請行動を行いました。

当日は、杉教育長に直接陳情書を提出、趣旨を説明して善処方を要請しました。教育長



ウ JR等、公共交通機関による生徒の活動実態に応じた通学手段の確保

エ 近隣の体育館やグラウンド等、他団体等所有施設の借用措置等の推進

オ サテライト校や宿泊施設における生活環境の改善

四 平成二十六年三月新規卒業生、特に相双地区卒業生に対する求人確保等、就職促進対策の強化

五 施設・設備の耐震化対策の継続と強化並びにエアコンの設置

校PTA連合会山形大会が七月十一・十二日山形県高等学校PTA連合会主管の下、山形市総合スポーツセンター・パレスグランデールにて開催されました。「感謝するこころ」家族・地域・社会の絆を求めて」を大会研究テーマとし、東北各県から千七百名以上の方々が参集しての熱気ある大会でした。研究協議では、坂下高校の磯目泰彦会長が「PTAのあゆみ」これからのPTA活動」と題し、サテライト校として双葉翔陽高校を受入れ、本校生徒との交流を行なったこと等の有意義な発表でした。和田秀樹氏による記念講演後、山形中央高校吹奏楽部による素晴らしい演奏でフィナーレを迎え、参加者に感動を与えた東北大会でした。

研究協議発表について

福島県立坂下高等学校 PTA会長 磯目 泰彦



第六十二回東北地区高P連の大会は山形市で、七月十一・十二日の二日間に行われました。

今大会のテーマは、「感謝するこころ」家族・地域・社会の絆を求めて」であり、

そのテーマに沿って各県一校、計六校の発表と討論が行われました。今大会の研究テーマ「スローガンが「たくましく生きる力をはぐくむために、家庭・学校・地域の架け橋として、PTAができること」ということで、福島県代表として「PTAのあゆみ」これからのPTA活動」と題して発表してきました。

学校の概要(沿革、校訓・校章、サテライト校の受け入れ)、PTAの活動(概要、委員会の活動、文化祭への協力)を報告してきました。その中で、本校は地元地域の各方面で活躍されている同窓生が多いことに触れ、同窓会との交流が行われていることを紹介してきました。同窓会総会や役員会の開催に合わせ、在校生の授業見学、講話依頼、PTA役員との合同懇親会を行うことは、地域の方々の貴重な意見を取り入れる場となっています。

現在、生徒数の減少により、PTA会員数も同様に減少の一途をたどっています。今年度は、役員の定数も削減せざるをえませんでした。PTA活動が縮小傾向になっていますが、現在実施している朝のあいさつ運動の他に、今後は講演会の開催や駅でのマナーアップ指導を行うことにより、家庭・学校・地域の架け橋となるよう努めていきたいと思っております。

平成25年度
**県高P連専門
 委員会・単P
 活動報告**

総務委員会

委員長 福島 佳之
(安積高校)

八月一日(木)に第一回総務委員会を福島県青少年会館で開催し、以下の議案につき協議しました。

一、東日本大震災への対応について

①事業計画運営方針案について：平成二十六年事業計画案につき、昨年同様に仮設校舎設置校及びサテライト校に対する支援を継続する旨の運営方針案が承認されました。また、一月に開催される総務委員会までにサテライト校訪問等を実施する等により、この案の更なる検討を進めることとしました。

②対県陳情要望について：東日本大震災及び原発事故後、未だに高校生の学習環境及び生活環境に影響を与えている現状に鑑み、県教育委員会に対し要望を陳情しました。

二、義援金の扱いについて

全国高P連より、第五次義援金が福島県へ贈呈され、相双地区の各高校及び地区会へ、全額配分することに決定

しました。

三、年次大会の開催について

平成二十八年年度県大会は、相双地区開催予定ですが、未だ地区外へ移転を余儀なくされている高校もあり、相双地区の特殊性に鑑み、同地区の負担軽減を図るため、ローテーションより外すこととしました。

なお、協議された県教育委員会への陳情については、去る九月三日に会長、副会長及び事務局長の七名にて、県教育庁を訪問し杉昭重教育委員長へ、直接要望書を手渡し、陳情してきました。

進路対策委員会

委員長 古川 雅和
(清陵情報高等学校)

「進路実現」に向けて

今年度の進路対策委員会は、八月一日に各委員・事務局参集の中、福島市の青少年会館で行われました。この委員会では、平成二十四年度の活動報告を行い、二十五年度の活動について話し合いが持たれました。

話し合いの結果、今年度もリーフレットを作成して発行するという事で合意し、協議を行いました。その結果、保護者に確実に配付するため、配付時期を新年度PTA総会や入学式に合わせることにしました。また、四年間同じような内容が続いたことから、今年度は内容について

て、「進路選択のミスマッチ防止」・「先輩の声」・「インタビュー」・「アンケート」・「話し合いのきっかけになるもの」など、多くの意見が出されました。これらの意見をもとに、次回委員会でも内容を確認し、保護者の方々の参考になるリーフレットを発行したいと考えています。

今、子ども達の進路を考えると、高校入学と同時に、親子の話し合いを持ち、就職・進学どちらでも子どもにとってベストな進路になるように学校・家庭がそれぞれの役割を果たし、進路目標実現のために努力が必要だと思えます。

健全育成委員会

委員長 門馬 亜津子
(福島東高校)

健全育成委員会では、①高校生への安全教育、安全活動の充実・促進 ②健全育成安全教育に関する関係機関・諸団体との連携 ③交通安全運動の促進 ④生徒とPTA・地域・関係機関との連携による社会活動の参加、この四つを方針としています。

今年度の主な活動は、「登校時一声運動・マナーアップ運動」と「善行推薦表彰」です。「登校時一声運動・マナーアップ運動」は、東北地区高P連健全育成委員会の取り組みとして、東北六県で協力し

行なわれています。

県内加盟校では、単P独自の重点事項を掲げ委員会と協力し、地域性を活かした活動が定着しております。加盟校には、アンケートをお願いし、年度末に東北地区高P連健全育成委員会にて集計し、配布しております。今年度はアンケートの見直しも計りました。

生徒の朝の元気な様子が直接うかがえる活動をしており「善行推薦表彰」は、高校生の健全育成を進め、生徒の励みになるよう善行・社会奉仕を行なった生徒・団体を選考し、表彰します。子どもの健全育成の基盤である家庭と共に学校、そして地域の連携で、さらに成長の手助けをいただけるよう、これからもご協力お願いいたします。

調査広報委員会

委員長 塩澤 秀介
(いわき総合高校)

**紙面から元気を
 ～福島復興のために～**

この一年間調査広報委員の皆さん、御忙しい中、御尽力戴き感謝致します。あの忌まわしい出来事から早や三年目を迎えるようになっています。現状は、決して満足のいく進捗状況ではありません。でも各個人におかれましては、絶えまない努力で少しずつ前に進んでいます。我々役員としましては、主な活動である広報

紙コンタールの実施と県高P連会報の発刊において、少しでも元気造りをと想い、前向きに動いています。

まずは、平成二十五年八月一日、第一回調査広報委員会、会報紙の紙面サイズは昨年同様A四判六ページで同意し、一面に、三年振りに開催した高P連いわき大会を大々的に取り上げることにしました。流れとしては、通常の構成でも粋のいい紙面にしてい

く事。そして、原稿依頼に際しては、御多忙の中、快く引き受けて戴き感謝に耐えませ

ん。さらに、各校の広報紙の方ですが、各校の熱い思いが凝縮された甲乙付け難い広報紙ばかりでした。今年は、選出に骨が折れる傑作の数々に、頭が下がる思いでした。

私としては、今の現状を打破すべき我々ができる事、タイトルにも記した『紙面から元気を』を、継続していきま

す。最後に、手に取って読みたくなる紙面・興味をそそる生徒達の活躍のある記事。生の県高P連の動きがわかる事。課題をいつも追い求め、フレキシブルに対応できる活動でありたいと思います。これから、活発な協議をしていきたく思います。

単P活動報告

好間高校PTA

本校PTA活動は、毎年四

月に全校生徒の保護者を対象に「PTA活動参加希望調査」を実施し、次の三項目についていづれかに参加して頂いております。

一つ目は朝のあいさつ運動です。今年度は三学年が六月、二学年が七月、一学年が九月、十二月、計十六回、朝八時から三十分間、生徒昇降口にて実施しました。小雨の降る日もありました。多くの保護者の方にご参加頂き、参加後には学校生活を垣間見ることができたなどの感想も頂きました。

二つ目は豚汁サービースです。今年度は、好間祭が十一月十七日に開催され、PTAでも三学年保護者を中心に、豚汁と焼き鳥販売を行いました。

三つ目は好間連合PTA球技大会です。今年度は八月二十五日に好間中学校で行われ、好間地区小中学校の計六校のPTA役員を中心に、ソフトボールとバレーボールを行いました。

また今年度、いわき地区高P連調査広報事務局というところで、ラジオ福島アナウンサーの大和田新氏をお招きして講演会を実施したり、県大会にて発表したりと積極的に活動した一年でした。

次年度も全保護者でPTA活動を実施し、さらに好間高校を活性化できるように心がけていきたいと思います。

全国大会 栄光を称えて

Pride

富岡高校男子バドミントン部
主将 保木卓朗



僕たち富岡高校男子バドミントン部は、永年の悲願であったインターハイ学校対抗戦初優勝・打倒埼玉栄を果たすことができました。決勝戦の前、コート上で全員で手をつなぎ目を閉じました。本多先生から「ついに最高の舞台



にたどりに着いたな。この瞬間にたどりに着くまでの間、色々あったけど皆よく頑張った。後は思いっきりこの時を楽しむだけだ。さあ行くぞ！」目を開き会場を見渡すと、保護者や先生方そして卒業生、富岡町・猪苗代町有志の方々が多数応援に駆け付けてくれました。たかさんの仲間と、そして応援してくださる皆さんとともにこの場に立っているんだ。」そう感じた瞬間、目頭が熱くなりました。その後、試合のことや優勝した瞬間のことはあまりよく思い出せません。しかし思いっきり楽しかった。そして、涙が止まらなかつた記憶だけは残っています。きっと仲間を信じ、自分の歩んできたプロセスを信じていることができたからだと思います。東日本大震災・原発事故などにより、私はたかさんのものを失いました。しかし同時に、「仲間」というかけがえのないものを得ることができました。その仲間とともに富岡高校で、日本一になったことを私は誇りに思います。

国体優勝

福島県立安達高等学校
力又一部 小久保 南海

今年の国体は、二度目の出場ということもあり、ぜひ優勝したいという気持ちで臨んだ試合でした。そのため、大会の二週間前から父と朝練習をするなど、準備万端の状態です。普段の大会では、予選から緊張してしまうのですが、今回は自信が持っていたので、あまり緊張せず、漕ぐことができました。決勝では、さすがに少し緊張してしまいましたが、冷静に漕ぐことができ、自分のレースプランがうまくいって優勝することができたので、とても納得がいく試合でした。優勝したことで、一番高い得点を獲得することができ、いつもお世話になっていた福島県に貢献できたのではないかと思います。来年も国体に出場して連覇し、また福島県に貢献できるように頑張りたいと思います。

北九州インターハイ優勝

田村高等学校ウエイトリフティング部
近内 三孝

私は、長崎県で開催された全国高等学校総合体育大会ウエイトリフティング競技



六十二kg級に出場し、C&ジャーク・トータルにおいて優勝することができました。昨年の北信越インターハイでは、怪我により思うような結果がでず、悔いが残りませんでした。その日から怪我をしない体づくりと、記録向上を目指し、毎日の練習の中で、その日その日の目標を持ち練習に取り組んできました。弱点であった大腿四頭筋、体幹の強化にも力を入れました。

大会当日は、スナッチ一〇五kgと、ベストが出せませんでした。C&ジャークでは集中し競技に臨み、自己新記録の一四一kgを達成し総合優勝することができました。私がこのような結果を残せたのも、顧問の先生をはじめ、

周囲の方々を支えられてきたからだ実感しています。今後も新たな目標に向かい、頑張りたいと思います。本当に感謝の気持ちで一杯です。ありがとうございます。

最優秀読手になって

安積黎明高等学校かるた部
星 杏奈



は、八月三日、八月四日に行われた『長崎しおかぜ総文』の『小倉百人一首かるた部門』で、最優秀読手となりました。これまで多くの先輩がこの大会に挑んでおり、また、全国の読手のみなさんと競えることになって、好奇心いっぱいでした。私が読手を始めたのは、受賞から一年ほど前の夏でした。日々の練習に加え、比較的大きな大会で読ませていただくなど、自分の力となる経験をたくさんさせていただきまし



私たちの軌跡

相馬高等学校放送部
局長 鈴木ひかる

「相馬高校から未来へ」と名付けた私たち放送局のテレビドキュメンタリー番組が第六十回NHK杯全国高等学校放送コンテストで最優秀賞をいただきました。この作品は、震災後の私たち相馬高校生の軌跡です。決勝大会では、NHKホールの舞台上、たくさんの方に観て頂くこと



ができました。長時間に及ぶ取材や、過密スケジュールの中で映像編集作業は、決して楽なものではありませんでしたが、辛いこと以上に得られたものがたくさんありました。一緒に戦ってくれた放送局、演劇部のメンバーをはじめ、応援してくださった全ての方々へ感謝の気持ちでいっぱいです。そして、最後までこの伝統ある相馬高校放送局で活動できたことを誇りに思います。私は卒業してしまいましたが、相馬高校放送局はまだまだ、さらに進化していきます。これからも、相馬高校放送局をどうぞよろしくお願ひいたします。

全日本合唱コンクール 全国大会に参加して

会津高等学校合唱部
顧問 大竹 隆

去る十月二十六日、広島県福山市のふくやま芸術文化ホール・リーデンドーズで開催されました、第六十六回全日本合唱コンクールのBグループ（三十二名以上の部）に東北支部代表として参加して参りました。

出発前から、台風の影響が懸念されましたが、当日は秋晴れの好天に恵まれ、金賞並びに広島県知事賞を受賞することができ、大変嬉しく思います。宮沢賢治の詩による課題曲と聖母マリアを讃える自



由曲、どちらも詩の解釈が難しく、歌うより話し合う時間の方が多かったように思いますが、妥協せず、自分達の納得のいく響きを目指し続けたことが、結果に結び付いたのだと思います。これまで築いてこられた先輩方、常に惜しまぬご支援をして頂いたご保護者と学校関係の皆様、そして地域の皆様に心より感謝申し上げます。

今後ともコンクールにとらわれず、意義ある活動をして参りたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

日本一になるために

郡山商業高等学校

珠算部

私たち珠算部は、平成二十五年全国電卓競技大会団体の部において、日本一を

勝ち取ることができました。先輩方や、私たちの夢でもあった「日本一」を現実のものにできたのは、顧問の先生に県内だけでなく県外の遠征や、合宿に参加させていただいたり、声出しなど文化部では考えられないような練習をしてきたからだと思えます。また、試行錯誤して、効果的な練習を考えてきた先輩方と一緒に練習してきた仲間、そして部員全員が、高い意識のもと厳しい練習に取り組んできた結果で、先輩を含めみんなで勝ち取ったものです。

私たち珠算部は、これからさらに強くなり、福島県や東北地方を代表する部活動として、全国大会で何度も優勝できるチームになります。それが、わたしたちを支えてくださる方たちへの恩返しだと思います。日々練習に取り組んでいきますので、今後とも応援よろしくお願ひいたします。



三年計画、次こそは

小名浜高等学校
商業部 高橋 秀典



私は、第五十九回全国商業高等学校珠算・電卓競技大会珠算部の読み上げ暗算競技において、優勝は逃したものの

「ふくしま発、技術者のたまご」として 技への飽くなき挑戦 世界へ

郡山北工業高等学校
高畑 悠

平成二十五年六月にスペインのバルセロナで開催された第四回国際ナノ・マイクロアブリケーションコンテストに日本代表として出場し、世界各国の主眼に大学院生や大学生が参加する中、高校生チームとして、世界初となる Second Prize に上位入賞することができました。世界大会では、一般の方に対するポスターセッションと審査員に対するプレゼンテーションで製品の評価が行われまし



展示風景 (©CIB: バルセロナコンベンションセンター)

二等をいただくことができませんでした。私は、去年の八月から体調を崩し、思うように練習ができず苦しんだ時期がありました。その時に、家族や学校の枠を超えて、練習の仕方を目指してくださった先生方、そして何より小名浜高校の先生方の支えがあったからこそ、今回の結果につながったと思います。

自分たちが創ったものの魅力をどのように伝えるか。福島の工業高校生が世界へ挑戦するために、今回の「SmAROB」を創りました。東日本大震災後ロボットは様々なメディアで取りあげられ、特に原子力発電所の問題解決のためにはロボット技術の発展が急務であること

編集後記

東日本大震災からまもなく三年が経過しようとしています。厳しい環境の中で一生懸命頑張っている子どもたちの姿が、この会報を通じて報告ができること嬉しく思います。今回の県高P連第30号の発行にあたり、お忙しい中、原稿をお願いしました皆様には大変ご協力を頂きまして、心より感謝申し上げます。いわき総合高校 馬上 裕里子



サグラダファミリアの前にて



バルセロナ大学 (表彰式後)

を再認識しました。そこで、私たちは誰でも容易に操縦できる「SmAROB」の開発に取り組みました。最高の仲間と創った「SmAROB」が世界で評価されたことに感激し、福島に明るいニュースを届けられたことを嬉しく思います。

栄 光 の 記 録

国体・高校総体・定時制通信制体育大会・高文連全国大会

第68回国民体育大会

■水泳競技

服部 翼 福島成蹊高等学校
少年男子B100m自由形 4位

服部 翼 福島成蹊高等学校
少年男子B100mバタフライ 1位

安部翔一郎 湯本高等学校
少年男子B100m平泳ぎ 3位

加藤 樹 福島成蹊高等学校
少年男子B200m個人メドレー 4位

加藤 樹 福島成蹊高等学校
安部翔一郎 湯本高等学校
寺田 拓末 湯本高等学校

服部 翼 福島成蹊高等学校
少年男子B400mメドレーリレー 3位

小松 桃子 湯本高等学校
少年女子A100m自由形 4位

■ボート競技

佐々木 幸 田村高等学校
少年女子シングルスカル 5位

■陸上競技

吉田 惇 平工業高等学校
少年男子共通円盤投 3位

村澤 雄平 会津学鳳高等学校
少年男子Aやり投 7位

五十嵐 礼 会津学鳳高等学校
少年男子B110mH 6位

荒 裕子 相馬東高等学校
少年女子共通やり投 7位

■サッカー競技

少年男子 4位

■レスリング競技

我妻翔比古 田島高等学校
少年男子グレコローマスタイル60kg 3位

■ウェイトリフティング競技

中野 直樹 川俣高等学校
少年男子53kg級スナッチ 5位

中野 直樹 川俣高等学校
少年男子53kg級C&J 5位

近内 三孝 田村高等学校
少年男子62kg級スナッチ 1位

近内 三孝 田村高等学校
少年男子62kg級C&J 1位

佐藤 啓隆 福島工業高等学校
少年男子94kg級スナッチ 5位

佐藤 啓隆 福島工業高等学校
少年男子94kg級C&J 4位

■自転車競技

西尾 滉平 平工業高等学校
少年男子1kmタイム・トライアル 3位

■ソフトボール競技

少年女子 3位

■バドミントン競技

少年男子 5位

保木 卓朗 富岡高等学校
小林 優吾 富岡高等学校
古賀 穂 富岡高等学校

少年女子 5位

濱北 もも 富岡高等学校
東野 有紗 富岡高等学校
川上紗恵奈 富岡高等学校

■カヌー競技

菅野 寿斗 安達高等学校
少年男子カヤックシングル
500m 5位

菅野 寿斗 安達高等学校
少年男子カヤックシングル
200m 5位

小久保南海 安達高等学校
少年女子カヤックシングル
500m 1位

小久保南海 安達高等学校
少年女子カヤックシングル
200m 4位

平成25年度 全国高等学校総合体育大会

■陸上競技

吉田 惇 平工業高等学校
男子円盤投 5位

田辺 美咲 田村高等学校
女子1500m 4位

■水泳(競泳)

小松 桃子 湯本高等学校
女子100m自由形 3位
女子200m自由形 5位

伊藤 朱理 いわぎ光洋高等学校
女子800m自由形 8位

■ソフトテニス

那須 暁帆・後藤祐佳里 田村高等学校
女子個人 5位

■バドミントン

富岡高等学校 男子団体 1位

保木 卓朗 富岡高等学校
男子シングルス 2位

小林 優吾 富岡高等学校
男子シングルス 3位

保木 卓朗・小林 優吾 富岡高等学校
男子ダブルス 1位

渡辺 勇大・三橋 健也 富岡高等学校
男子ダブルス 5位

富岡高等学校女子団体 2位

大堀 彩 富岡高等学校
女子シングルス 3位

東野 有紗 富岡高等学校
女子シングルス 5位

■ボート

佐々木 幸 田村高等学校
女子シングルスカル 6位

■自転車競技

白河実業 年間紙面審査奨励賞

4kmチーム・パーシュート 8位

平工業高等学校
チームスプリント 8位

西尾 滉平 平工業高等学校
ケイリン 7位

■ウェイトリフティング

中野 直樹 川俣高等学校
53kg級スナッチ 3位
53kg級クリーン&ジャーク 5位

近内 三孝 田村高等学校
53kg級トータル 2位

62kg級スナッチ 2位
62kg級クリーン&ジャーク 1位
62kg級トータル 1位

佐藤 啓隆 福島工業高等学校
94kg級スナッチ 8位
94kg級クリーン&ジャーク 6位
94kg級トータル 6位

■ボクシング

村上 真統 平工業高等学校
ライトウェルター級 5位

■フェンシング

佐藤 篤志 川俣高等学校
男子サーブル 8位

■カヌー

嶋原雄斗・野地裕太 二本松工業高等学校
男子カヤックペア200m 6位
男子カヤックペア500m 8位

平成25年度 高文連専門部全国大会(団体)

■第80回

全国学校音楽コンクール全国大会
安積黎明高等学校 銀賞(2位相当)

■第66回

全日本合唱コンクール全国大会
会津高等学校
金賞(2位相当)(広島県知事賞)

安積黎明高等学校
金賞(3位相当)
(広島県教育委員会賞)

■第61回

全日本吹奏楽コンクール
湯本高等学校 銀賞
平商業高等学校 銀賞

■日本学校合奏コンクール2013

全国大会 銅賞

郡山商業高等学校 銅賞

■第60回NHK杯

全国高校放送コンテスト
テレビドキュメント部門
相馬高等学校 優勝
原町高等学校 優良賞
安積黎明高等学校 入選

■創作テレビドラマ部門

磐城高等学校 優勝

■ラジオドキュメント部門

相馬高等学校 入選

■第37回

全国高等学校総合文化祭新聞部門
福島高等学校 優良賞
郡山東高等学校 年間紙面審査奨励賞

■第28回全国高等学校文芸コンクール

文芸部誌部門 優良賞
磐城高等学校 優良賞

■第37回全国高等学校総合文化祭

自然科学部門
ポスター(パネル)発表科学部門
磐城高等学校 奨励賞
磐城高等学校 地学部門奨励賞
磐城高等学校 科学部門奨励賞

■第4回国際ナノ・マイクロアブリケーションコンテスト

鈴木 祐太・関根 悠太
高畑 悠・橋元 佑真
郡山工業高等学校
世界大会2位

■第60回全国高等学校

珠算・電卓競技大会
郡山商業高等学校
団体総合 4位

■平成25年度全国電卓競技大会

郡山商業高等学校
団体競技高校の部 1位

■第61回全国高等学校家庭クラブ研究発表大会

学校家庭クラブ活動の部
福島北高等学校
文部科学大臣賞(第1位)

(個人)

■第37回全国高等学校総合文化祭
海津ひかり 白河高等学校
書道部門 特別賞

■第60回

NHK杯全国高校放送コンテスト
叶多 栞 磐城高等学校
アナウンス部門 入選

渡邊由紀子 郡山高等学校
朗読部門 入選

■第34回

U-20プログラミングコンテスト
羽生 徹 郡山北工業
経済産業大臣賞(全国1位)

■第60回全国高等学校

珠算・電卓競技大会
珠算部門
高橋秀典 小名浜高等学校 2等

読上暗算競技 2等

電卓部門
大柿里紗 郡山商業高等学校
個人総合 3等

伝票算
渡邊紗弥 郡山商業高等学校 2等

熊谷由美 郡山商業高等学校 3等

■第37回全国高等学校総合文化祭

小倉百人一首かたる部門
星 杏奈 安積黎明高等学校
読手コンクールの部 最優秀賞

全日本かたる協会会長賞
古川可奈 安積黎明高等学校
読手コンクールの部 優良賞(第6位)

■第35回全国高等学校

小倉百人一首かたる選手権大会
古川可奈 安積黎明高等学校
B級 2位

柳辺奏絵 郡山商業高等学校
C級 3位

■第28回全国高等学校

文芸コンクール短歌部門
藤原 千鶴 磐城高等学校 優秀賞
廣岡奈那子 磐城高等学校 入選

■第43回

日本学校農業クラブ全国大会
農業鑑定競技
渡辺唯嗣 岩瀬農業高等学校 優秀

根本有希 磐城農業
生活科学 優秀

赤坂春奈 福島明成高等学校
食品科学 優秀

遊佐茉莉子 福島明成高等学校
食品科学 優秀

齋藤公見 修明高等学校
農業情報処理競技 優秀

■第61回全国高等学校家庭クラブ研究発表大会

ホームプロジェクトの部
國分 愛 耶麻農業高等学校
全国家庭科教育協会賞(第4位)